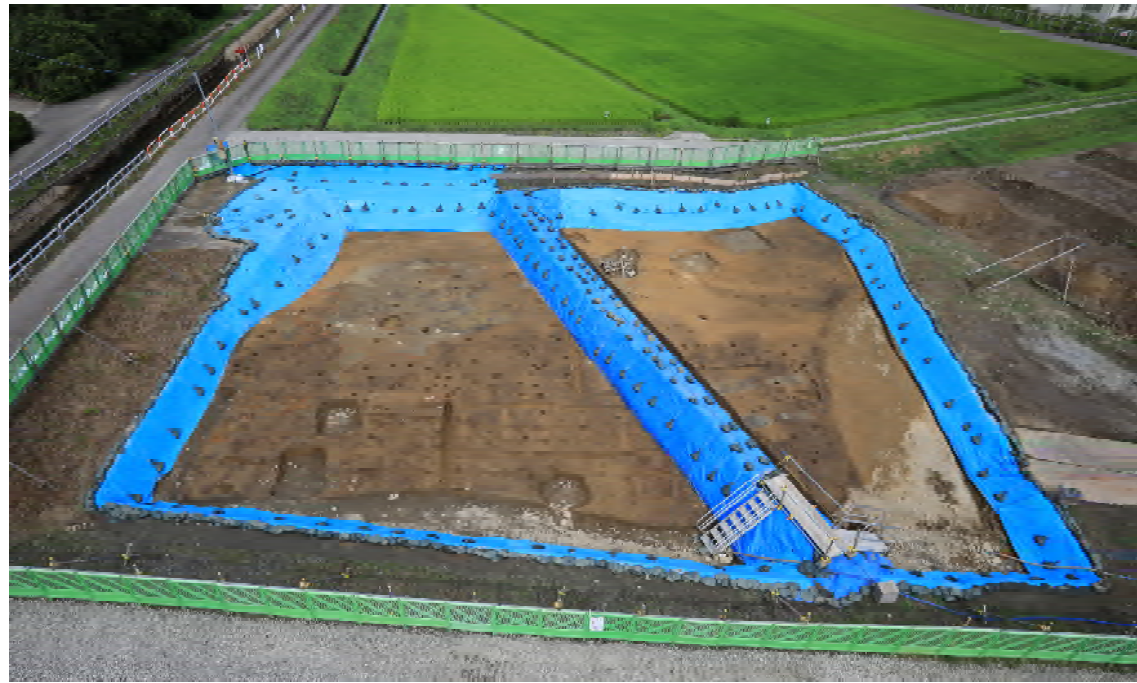


# かなや 南魚沼市 金屋遺跡 5 次調査現地説明会資料



令和 3 年 11 月 3 日（水）

国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所  
公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団



2 区全景（西から）

## 2 遺 物

竪穴建物や柱穴、土坑、流路から平安時代の須恵器・土師器が出土しています。須恵器は杯・有台杯・杯蓋が多く、他には甕・横瓶などがあります。土師器は碗・長甕・小甕が出土していますが、煮炊きに用いる長甕・小甕の数量が少ないです。土器の表面に墨で文字を記した墨書土器と文字を刻んで記した刻書土器が出土しています。墨書土器は、「咋女」・「旨」の文字が須恵器有台杯の底面に記されています。刻書土器は、土師器碗の底面に「女」と記されています。

その他に鉄製品が出土しています。鋳ぶくれがひどく形状がわからない状態ですが、馬具の金具・刀子・紡錘車・釘などが出土しました。また鉄滓・羽口片が少量出土しています。集落内で鍛冶作業をしていたことをうかがわせます。



土師器 小甕出土状況



鉄製品 馬具の金具出土状況



墨書土器「旨」



墨書土器「咋女」



刻書土器「女」

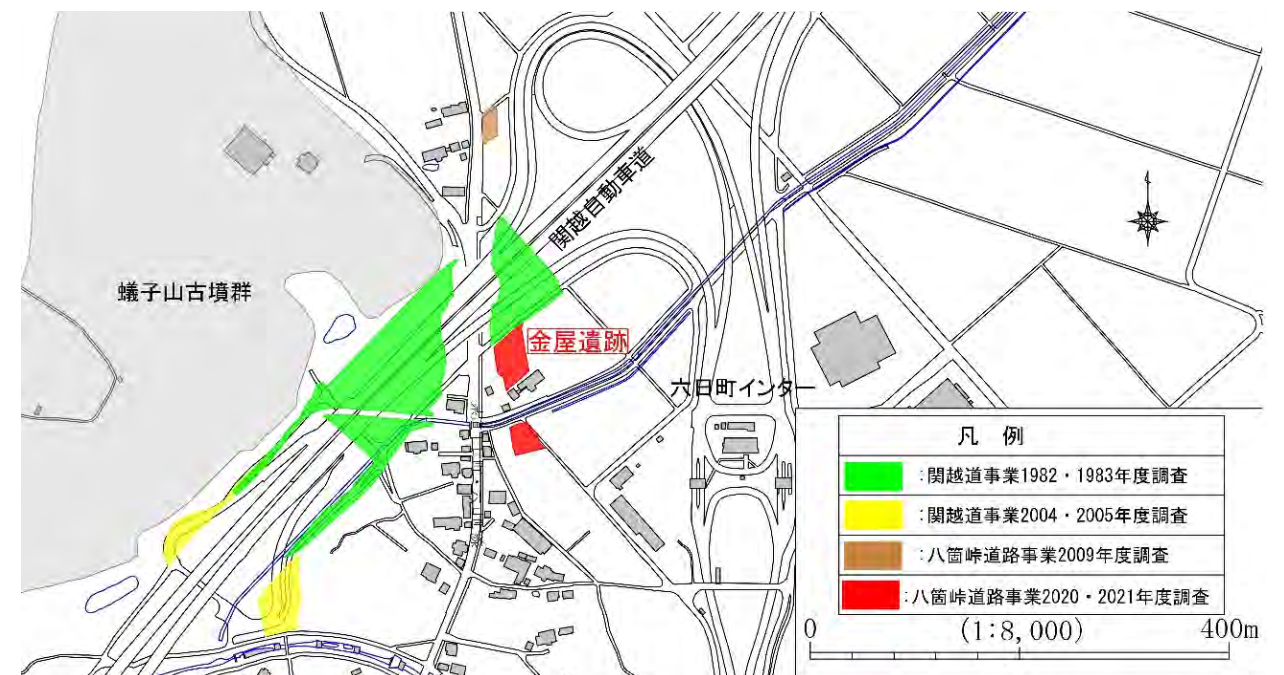
## 1 遺跡の概要

金屋遺跡 5 次調査は国道 253 号八箇峠道路建設事業に伴い、昨年に続き 6 月から発掘調査を実施しています。遺跡は、魚沼丘陵の東側に位置する独立丘陵の東裾部、庄之又川によって形成された標高約 192m の扇状地上に立地しています。金屋遺跡の発掘調査は関越自動車道建設に伴って初めて行われ、古墳時代、平安時代の集落が営まれていたことが明らかにされています。近年は国道 253 号八箇峠道路建設に伴って発掘調査を実施しています。

令和 3 年度の調査面積は延べ約 2,200 m<sup>2</sup> で、2 地区で調査を行っています（下図の赤色範囲）。平安時代（9 世紀代）の掘立柱建物、竪穴建物などが見つかり、古代魚沼郡にある集落の姿が徐々に現れてきました。



調査区全景（東から）



金屋遺跡のこれまでの発掘調査地点

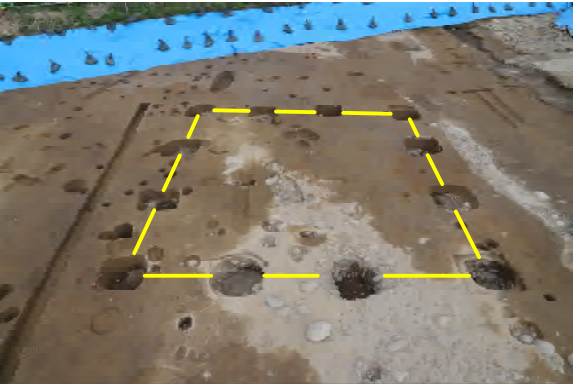


2 調査の概要

今年度の調査区は北側を1区、南側を2区と呼称しています。

1区は、昨年度からの継続で調査をしました。掘立柱建物や竪穴建物などの遺構が見つかりました。建物は同じ軸で規則的に配置されている様子がうかがえます。西側には流路があり、それに沿って木杭と考えられる小穴が多く見つかりました。

2区は、掘立柱建物の柱穴や竪穴建物などの遺構が見つっています。東側には1区からの流路が続いています。



掘立柱建物1（西から）

掘立柱建物1は柱間が3間×3間で、大きさは1辺5mの正方形です。柱穴は1辺1mの方形で、1.6から1.8m間隔で立てられています。南西隅の柱穴から須恵器の杯蓋が、南東隅の柱穴から口縁部を打ち欠いた須恵器の有台杯が出土しました。地鎮跡と考えられます。



竪穴建物1（北から）



竪穴建物1の遺物出土状況

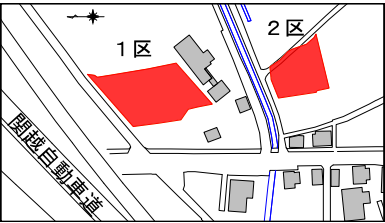
竪穴建物1は長辺5m、短辺3.7mの方形で、南側壁面にカマドがありました。カマドの付近には煮炊きに用いた甕などの土器片が散乱していました。



掘立柱建物1の柱穴断面



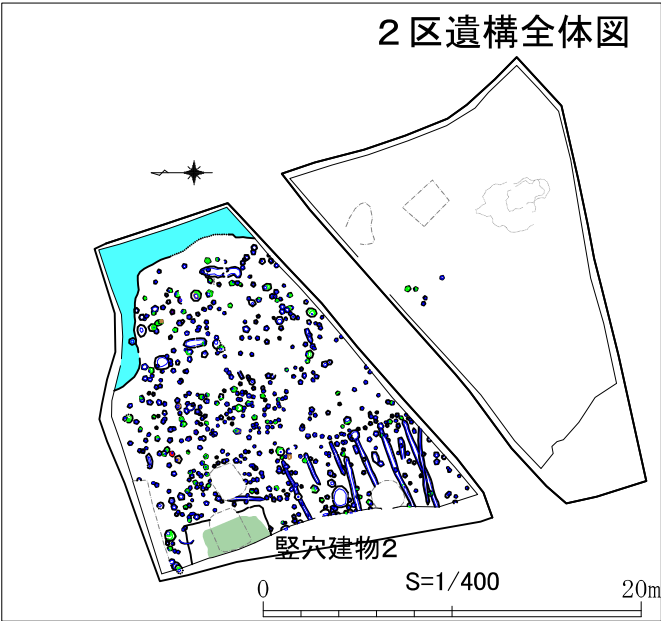
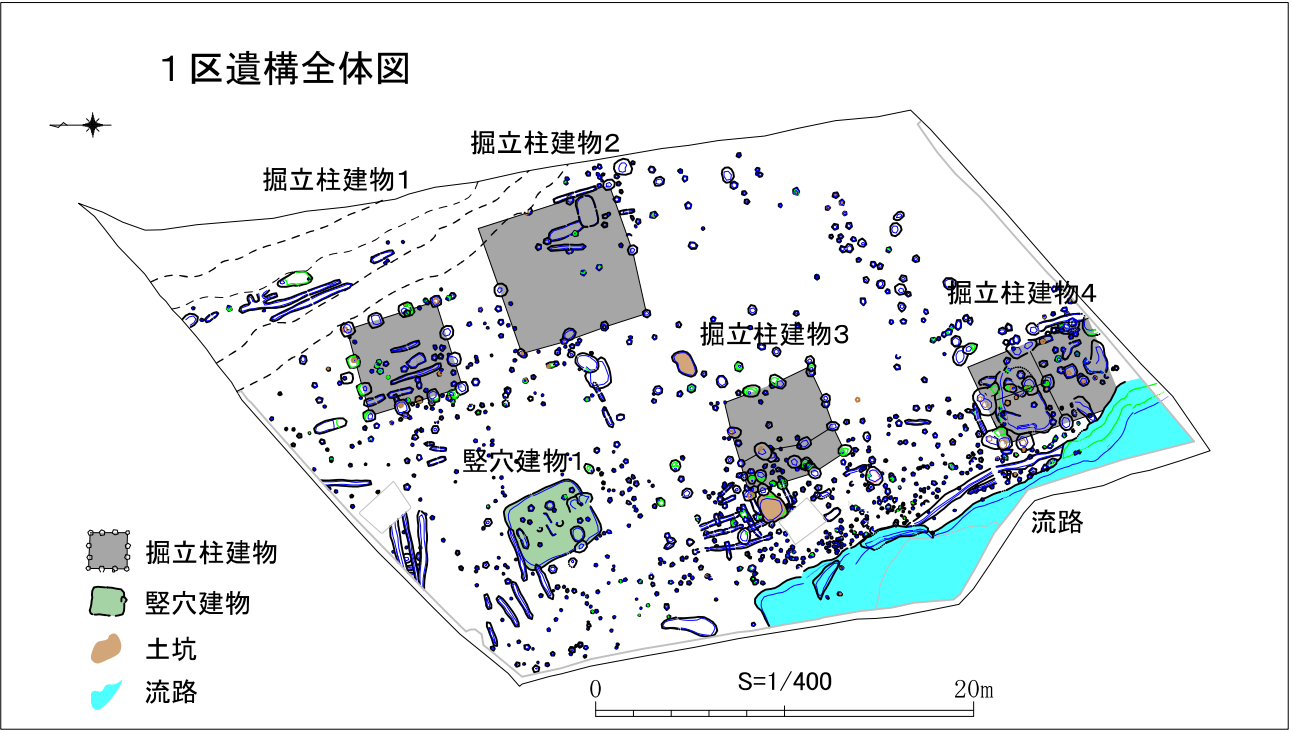
柱穴から出土した須恵器



2021年度調査区名



1区全景（北西から）



竪穴建物2のカマド

竪穴建物2は、西側を後世の土石流で失われていますが1辺5～6mの大きさと考えられます。南方の壁面にカマドがあります。袖石が残り、壁面は被熱で赤く焼けています。

掘立柱建物4の柱穴は検出面から深さが1mに達するものがあり、大規模な建物であったと考えられます。底面には柱の圧痕が確認でき、径35～40cm程の柱が立てられていたようです。その柱は抜き取られていました。



掘立柱建物4の柱穴



掘立柱建物3の柱穴から出土した須恵器甕